

# 「大統領候補ハリス」と民主党の分断

——民主党大会から見えるアメリカ社会の断層

副大統領にして、歓迎されざる大統領候補。ハリスの

勝ち目は、やはり社会の分断と民主党の「左傾化」なのか。

- ・アメリカの「文化的ねじれ」がもたらす分断
- ・バイデンはハリスへの禪譲でレガシーを狙ったか
- ・予備選を勝ち抜いていないハリスの勝算は

民主党大会には二〇〇四年、共和党大会は〇八年から代議員と列席してきた筆者の経験から言えば、二〇二四年民主大会は可もなく不可もない出来だった。大会期間中、党幹部は「今日もデモが荒れず無事に終えられた」と残り日数を指折り数えたが、親パレスチナ派の「乱入」はなかった。ただ、三日目の夜、ハマスに息子を人質にされたユダヤ系市民が登壇した時だけは騒然とした。筆者の隣で民主党古参の顧問は「ジャミー（民主党全国委員長）にすぐ伝えろ。パレスチナ系市民を登壇させないともたない」と電話で方々に指示を与えた。諸般の事情でこのパレスチナ系市民との「交渉」は決裂し、代わりにハリスが指名受諾演

## 渡辺将人

慶應義塾大学准教授

わたなべ まさひと 米シカゴ大修士国際関係論、早稲田大学博士（政治学）。米下院議員事務所・上院選本部、テレビ東京政治部（露クラフ）、北海道大学を経て現職。専門は米國政治。「大統領の条件」「アメリカ映画の文化副読本」「台湾のデモクラシー」など著書・翻訳書多数。

説で、イスラエルの自衛権とパレスチナの自決権を同時に並べ立て、ブーイングと大拍手が数分の間に入れ替わる、究極の「アリバイ演説」で乗り切った。

象徴的だったのはハリスへの党内の変わらぬ酷評（裏）と、「リベラル・メディア複合体」の大絶賛（表）の落差だ。筆者が一九九九年に勤務していた下院議員事務所一同のシカゴ同窓会を兼ねていた今回大会では、この落差を日々感じた。大会前夜のブリツカー州知事主催の懇親会には、ダービン、ダックワースら地元議員だけでなく、シューマー、ペロシーら議会幹部らが勢揃いしたが、ハリスの話題は「オバマとヒラリーの故郷からカマラを支える」と誓った乾杯

の時だけ。二〇二一年就任式でのクロブツシャー上院議員によるハリス紹介（「初の黒人、アジア系、女性副大統領」）の回顧が同議員と筆者の間で小さく盛り上がった程度だ。指名受諾演説も「必要なことには触れていたが感動には程遠い。オバマ大統領がしたようにカマラは「希望」を売り込めない。（ビル・）クリントンのような共感能力もない。それでも民主党は勝つ必要がある」という古参の女性マイノリティー政治家の感想が、反応の「裏の平均値」だった。

## 民主党の党内分断と「左傾化」の文脈

大統領周辺から現場の活動家まで民主党内で一貫しているのは「争点はトランプ」という掛け声だ（政策でもハリスでもない）。トランプ政権の再来への恐怖と嫌悪でしか党をまとめられないほど、民主党内部の亀裂は深刻だ。

一九九〇年代のクリントン政権下に頂点を極めた穏健派とリベラル派の対立は、主として経済的対立だった。しかし、穏健派はイラク戦争に賛成したことで発言力を弱め、二〇〇六年中間選挙でディーン民主党全国委員長、ペロース下院議長らリベラル派が要職を支配した。かつて周辺の存在だったリベラル派が勢力を拡大した。

オバマは二〇〇八年大統領選挙で、シカゴのユダヤ系リ

ベラル派に「反穏健派」候補として担がれた。オバマ政権は、人種問題からの距離の取り方、ドローン攻撃、「不完全な」医療制度改革など多くの点で急進左派の採点が辛く、右からのティーパーティー運動だけでなく、左からの「ウォール街を占拠せよ」運動に追い詰められた。急進左派の反乱を誘発した決定打は環太平洋パートナーシップ協定（TPP）だった。オバマ政権は「中国封じ込め」戦略という安全保障上の含意を国民に説明する努力を怠り、労組、環境保護、消費者団体が猛反対した。エリザベス・ウォーレンは、「NAFTA（北米自由貿易協定）の再来」であると喧伝した。この延長線上に、二〇一六年大統領選挙でのサンダース運動がある。

サンダース支持者は自らの「反ヒラリー」運動がトランプ政権を誕生させたことを猛省し、二〇年には「バイデンが左傾化する」条件付きで、「元」穏健派政治家バイデンに投票した。バイデン政権は、アフガニスタンからの撤退、キーストーン・パイプライン断念、保護貿易路線に加え、副大統領候補に「人種の少数派で女性」を選んだ。党内の政策対話による双方の「歩み寄り」ではなく、バイデン勝利と政権維持のための「しぶしぶながらの左傾化」が、のちのち禍根を招くことになる。

## 新世代左派「ウォーク・レフト」と文化戦争

民主党はトランプ共和党からの白人労働者の奪い返しに苦戦している。アメリカにおいては「白人労働者」は単なる人種属性や利益集団ではなく、「文化集団」だからだ。銃を愛好し、移民に不信感を抱く、しばしば原理的なキリスト教徒が、たまたま労働者でもあった。純粹な経済階級問題ではなく、南部や中西部といった地政学に影響された文化属性である。かつて深南部においては民主党支持者が人種差別的という文化的態度と政党のねじれもあった。

民主党内分断の核心も、実は文化争点にある。例えば、黒人内部の世代間分断の広がり深刻化しているが、これは世俗性をめぐる分断だ。黒人新世代は多様なセクシユアリティに寛容である。しかし、もともと敬虔なクリスチャンでもある黒人年配層は必ずしも同性愛に賛成ではなかった。黒人の共和党支持者が緩やかに増えているのは、LGB BTQが主要議題となる現在の民主党になじめない黒人も存在することを示している。クイア（既存の性的カテゴリーに当てはまらない人々）が創設したブラック・ライブズ・マター（BLM）は、古い意味での人種運動をセクシユアリティの問題に包摂したことで、黒人以外の幅広いリベラ

ルの共感を集めた。だが、牧師が主導した公民権運動のようには、黒人全世代から支持を得られていない。

このような「質的構造の分断」は、格差解消優先（サンダース派）と人種正義・アイデンティティ政治優先（オカシオ・コルテス派）、カトリックと女性団体の人工妊娠中絶をめぐる分断、化石燃料産業の労働者と気候変動活動家の分断など枚挙にいとまがない。一枚岩に見える若年層の「ジェネレーションZ」も、ジェンダー、人種、年代（二〇歳以降と一〇代）を細分化すればかなりの差がある。左派的なのは二〇代以降非白人女性だけだ。これらの亀裂を棚上げする応急処置の特効薬こそが「反トランプ」であり、ハリス陣営はバイデン政権と同じく、この「麻薬」に依存して勝利を目指している。

### 「大統領選挙」としてのバイデン・ハリス候補者交代劇

二〇二〇年大統領選挙で、民主党では誰もがバイデンはつなぎの「代役」と考えていた。バイデン自身は一六年の候補をヒラリーに譲り、亡き息子を串う隠遁生活に入っていたが、穏健派・リベラル派、新世代左派、無党派が相乗りできるのは唯一、「旧来の左派ではない」バイデンだけだった。だから、高齢で新鮮味のかけられないバイデン

だが、彼が一期つなげばトランプは消え去り、二四年に再び民主党が世代交代の指名争いを展開できるといふ考えが蔓延していた。しかし、二つの異変が民主党を襲う。

第一の異変は、トランプの勢いが衰えず、「トランプ党」が完成したことだ。米議会襲撃事件以後、主要ソーシヤルメディアから排除されようともトランプは影響を増した。二〇二二年共和党予備選でトランプが支持した候補の勝率は圧倒的で、マードック派メディアによる攻撃も効かず、二四年に事実上の「現職候補」としてトランプが出馬したことで、現職有利の法則から、デサントイス、ヘイリーなど主要候補はかすんでしまった。

第二の異変は、バイデンが再選を目指して出馬してしまったことだ。ホワイトハウスでは出馬を踏みとどまらせる工作が展開されたが、二二年中間選挙で善戦したことで、カマラ・ハリスへの禅譲に再びバイデン本人がこだわり始めてしまった。バイデンはフェミニストに「女性の敵」扱いはされてきた。連邦最高裁判事指名をめぐる司法委員会公聴会でセクハラ被害女性のアニタ・ヒルに冷淡だったからだ。汚名返上のために史上初の女性副大統領実現だけでは満足できなくなっていた。それは、ハリスの評価が最低水準だったからでもある。ある共和党重鎮は、「ハリスは民

主党版のダン・クエール（政権のお荷物のお副大統領）だと吐き捨てたことがある。マイノリティー女性の就任自体を「レガシー」にするには、大統領にするしかない。政権途中で退任してハリス大統領に禅譲する考えすらあったバイデンが出るなら、政権が謳ってきた「バイデンIIハリス」の看板を下ろすことはできない。バイデンの強引な出馬は、民主党内で予備選を封じ込め、選挙が苦手なハリスを守るためだと見られた。ハリスを大統領候補にするには、予備選開催には時間切れで、党大会とテレビ討論の準備には間に合う時期が絶好だった。討論会後に撤退論で流れを作り、撤退の内幕記事を独占で書いた「ニューヨーク・タイムズ」紙とバイデン周辺との「プロジェクト」だ、とある民主党古参議員はしみじみ述懐した。

### 大統領候補に「鍛え上げる」メソッド

ハリスの大統領準備の猛特訓は、今から一年前に選挙と外交の二正面で慌ただしく着手された。一つは若者との対話ツアーである。ハリスに幸運だったのは、ワシントンでの酷評が国民全般には伝わっていなかったことだった。バイデンに任された移民問題での失態以来、口も利かなくなっただけというバイデンとハリスだが、組織運営に慣れさせ

「投げ出しのハリス」を成長させるため、何かのプロジェクトをやり遂げさせる訓練が必要だった。生殖をめぐる自由、銃犯罪からの安全、気候変動など、今回の選挙戦でも焦点のイシューを詰め込んだ「大学ツアー」向けのハリスの猛勉強は、思わぬ形で大統領選挙の準備になっていた。

さらに二〇二三年九月の東南アジア諸国連合（ASEAN）首脳会合へのバイデン大統領の代理出席を皮切りに、外交の表舞台を突如担われ始めた。民主党下院外交委員会幹部が筆者に耳打ちした表現を借りれば、「ホワイトハウスのクローゼットに閉じ込め、隠していたハリスを、外交の表舞台に突然、放り込んだんだ」。実質が伴わない儀典性の強い登板でも、この時期の写真が「現職副大統領」の強みの広報に転用できた。「外交のハリス」の神話創造のために党大会向けに制作したビデオでは、マルチの外交会談に国務長官と列席し、世界の首脳と握手する動画を多用した（岸田首相も登場している）。

## 予備選なき選挙と壮大なキャンペーンの「実験」

予備選挙を経っていないハリス陣営は、バイデン陣営のインフラをそのまま移譲された。大統領選挙本部（HQ）は通常、政治家の地元拠点に置かれる。ハリスならカリフォ

ルニアだが、バイデンの拠点のデラウェア州ウィルミントンから移さなかった。この選挙はハリスの戦いではなく、バイデンのためであり民主党のためだからだ。ハリスは気の毒なくらいバイデンに気を使っている。陣営には「地上戦の神様」デイビッド・プラフ、YouTubeを用いた速射反論システムを作り上げた「空中戦の達人」ステファニー・カッターら元オバマ陣営のほか、元ヒラリー陣営から精鋭が上級幹部として集った。だが、内部の声によれば「ドリームチーム」も彼らなりに苦戦している。

第一に、予備選を経ない戦いの困難さだ。二〇〇八年のオバマ陣営は一年かけてアイオワで草の根の支援組織をつくり上げ、戸別訪問の態勢を各州に順繰りに築いた。その予備選の組織づくりの「資産」が、「選挙二周目」の本選に効く。直前動員に必要な有権者名簿は、予備選で各州の活動家を束ねるデータベースに蓄積されるからだ。しかし、ハリス陣営には予備選用の地方事務所も情熱的ボランティアも存在しない。現職再選でもないのに「草の根」がない本選は、民主党型の動員戦略としてはやりにくい。

第二に、彼らが候補者の「物語」が薄い選挙に慣れていないことだ。〇八年選挙は楽だった。「オバマ自身がメッセージ」だったからだ。戸別訪問で「生い立ちDVD」を

配布するだけで、情熱的なファンが増殖した。オバマが演説すると人々は泣き出した。あいにく、ハリスにそれは望めない。ハリス個人にそれを語るだけの能力がないというより、陣営がハリスの政策も、信念や哲学も、生い立ちをめぐる物語も「あいまい戦略」で乗り切ることになっているからだ。「このあいまいさはハリス陣営には好都合かもしれない。ハリス候補は政策的に空っぽの器であることで、民主党内のさまざまな支持層が自分たちの希望や優先事項をハリス候補に投影することを許している」(BBC)という見方もあるが、「ハリスが何者なのか見えない」という不満が主としてリベラル派支援者から、九月中旬以降噴出してきているのも事実だ。

政策を詰めるとボロが出るし、多様な支持基盤の要求がエスカレートするため、「反トランプ」の接着剤で「トランプ・バランス政権」が実現する恐怖をあり、選挙戦の二ヵ月を乗り切りたいのが本音だ。相手政党への「憎悪」による党内結束で、細かい政策を詰めない手法が可能なのは、逆説的に予備選を勝ち上る必要がなかったからでもある。普通は予備選段階で、経済、外交安保、移民など細かい政策を民主党内で競わされる。党内競争を完全にスルーできたハリスは、トランプとの差別化さえできればよい。予備

選で政策通候補や左派のウォーレン、サンダースと戦っていたら、こんなあいまいな政策ではもたない。

党大会前から複数のスピーチ担当やコミュニケーション担当が、ハリスを手取り足取り指導している。スピーチライター筋によれば、ハリスはプロンプターを読むのが上手でもアドリブに欠陥があり、緊張時の不自然な手振りも治らなかったが、初陣のデイベート(九月一〇日)を見るかぎり、かなりの程度改善している。オバマやビル・クリントン、レーガンほど本人のカリスマに依存できないとき、キャンペーンの力が試される。これは民主党とアメリカ選挙の歴史における壮大な選挙運動の実験とも言える。

今後、選挙戦はますますネガティブなものになるだろう。共和党弁護士ですらトランプがニューヨーク州訴訟で有罪になる公算が高いと指摘するが、選挙で勝利した場合どうするのか、天安門事件の年に広東省に教師として滞在し広東語も話せるウォルツの中国コネクション、基礎票動員に専心する両陣営から疎外される無党派層の動向、ケネディ支持派のリバタリアンがトランプに与える影響、ミシガン州アラブ系市民の投票率、ユダヤ系内部も分裂する中でイスラエル情勢の影響——接戦の中で「一〇月サプライズ」が起きた場合、そのマグニチュードは小さくない。●